

令和3年度

事業報告書

社会福祉法人 山口県共同募金会

<はじめに>

共同募金運動は、令和3年度で75回目となりました。新型コロナウイルス感染症の流行が長期化する中、共同募金運動を巡っても街頭募金やイベント募金の実施に大きな影響を受けるなど、厳しい状況が続いたところです。

本会では、コロナ禍において日常生活に困難を抱える子どもと家族を支援するため、フードパントリー活動や虐待防止・自殺防止のための相談援助活動を行う団体への支援として、31団体に対して689万円の助成を行いました。また、県域公募助成3,183万円、地域福祉助成1億9,415万円余、地域歳末たすけあい5,385万円余、NHK歳末たすけあい647万円余などの助成を行いました。

こうした取組を進めている共同募金ですが、近年は人口の減少や高齢化の進展、更にはコロナ禍の影響などにより募金額の減少傾向が続いています。しかしながら、昨年度の募金額は3億3,242万円余（対前年度99.5%）と、ほぼ前年度並みの水準を確保することができました。これもひとえに、関係の皆様のご尽力及び県民の皆様のご協力の賜物であり、共同募金に対する期待の現れでもあると考えています。

こうした中、コロナ禍における継続的な支援はもとより、子どもの貧困や社会からの孤立、引きこもり等の新たな福祉課題の出現、近年の地球温暖化に伴うと言われる自然災害の頻発など、支援ニーズは増大・多様化しており、共同募金の果たすべき役割はますます重要となってきています。

このため、本会においては、共同募金の減少を少しでも食い止めることができるよう、引き続き、寄付つき商品・企画の売上げの一部を共同募金に寄付する「募金百貨店プロジェクト」や、不用となった羽毛製品を回収し収益の一部を共同募金に寄付する「UMOUプロジェクトin山口」など新たな募金手法の拡充に努めるとともに、昨年度からは「ガチャガチャ募金」の取組も展開しているところです。

共同募金を取り巻く環境は大変厳しいものがありますが、本会としては、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らすことができる社会の実現を目指し、今後とも、市町共同募金委員会と一体となって、長期化するコロナ禍などの環境の変化に的確に対応しつつ、「共同募金の運動性の再生10年方針」（平成30年3月策定）に沿って、共同募金運動を積極的に推進してまいります。

<事業の実績>

1 共感できる募金の推進

市町共同募金委員会との連携のもと、地域の解決すべき課題等を把握し、地域住民にしっかり示した上で、戸別募金や職域募金等の推進を図るとともに、「募金百貨店プロジェクト」や「テーマ募金」、「ガチャガチャ募金」などの新たな募金手法の充実強化に取り組みました。

(1) 明確に説明できる目標額の設定

共同募金は計画募金であり、県全体で必要となる資金ニーズや公募結果等を踏まえた目標額を設定するとともに、広く周知を図りました。

○目標額	一般募金	266,457千円
	地域歳末たすけあい募金	78,902千円
	NHK歳末たすけあい募金	8,000千円
	赤い羽根テーマ募金	5,200千円
	合 計	358,559千円

※募金総額：332,420千円余（前年度：333,963千円余）

(2) 既存の募金手法の取組

募金の確保を図るため、既存の募金手法に積極的に取り組みました。

ア 一般募金

実 績：243,454千円余（前年度：242,953千円余）

(7) 戸別募金

実 績：178,586千円余（前年度：180,381千円余）

市町共同募金委員会に対して募金資材の斡旋や取組への支援を行うとともに、マスコミへの情報提供、ポスターによる広報活動等を行いました。

(イ) 法人・職域募金

実 績：40,814千円余（前年度：34,049千円余）

市町共同募金委員会による法人・職域への募金の呼びかけや、市町共同募金委員会と役割分担した県共同募金会の職域募金の依頼、募金百貨店プロジェクトの推進等を図りました。

(ウ) 街頭募金・イベント募金

実績：3,332千円余（前年度：3,329千円余）

街頭募金やイベント募金は、新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、規模を縮小した実施となりました。

(I) 学校・子ども会募金

実績：4,275千円余（前年度：4,523千円余）

学校での募金活動や県子ども会連合会と連携した組立式募金箱の提供による募金活動が行われました。

(オ) その他

実績：16,445千円余（前年度：20,668千円余）

個人や団体、企業などから募金が寄せられました。

イ 地域歳末たすけあい募金

実績：75,988千円余（前年度：75,787千円余）

市町共同募金委員会では、歳末に支援が必要な方々のための募金活動を実施しました。

ウ NHK歳末たすけあい募金

実績：6,476千円余（前年度：8,941千円余）

新型コロナウイルス感染症の予防に努めながら、2年ぶりに募金の開始式を実施しました。NHKの放送による募金の呼びかけや、山口放送局への募金受入窓口の設置により、多くの方から募金が寄せられました。

(3) 新たな募金手法の取組

募金の確保を図るため、新たな募金手法に積極的に取り組みました。

ア 赤い羽根テーマ募金

実績：6,501千円余（前年度：6,280千円余）

赤い羽根テーマ募金取組団体を募集し、認定された団体自らが赤い羽根を掲げて募金運動を推進しました。

イ 募金百貨店プロジェクト（法人募金の内数）

実績：6,029千円余（前年度：5,970千円余）

“寄付付きの商品・企画”を販売し、売上の一部を赤い羽根共同募金に寄付する取組を推進しました。

ウ UMOUプロジェクトin山口（法人募金の内数）

実績：993千円余（前年度：637千円余）

不用になった羽毛製品を回収し、リサイクル業者の引取り料金を寄付金とする取組を推進しました。令和3年度は市町共同募金委員会に一層の取組を要請した結果、寄付額は100万円に近いものとなりました。

エ ガチャガチャ募金（新規）（一般募金の内数）

実績：457千円余（新規）

新たに、レノ丸オリジナル缶バッジ等を景品とし、売上を共同募金に寄付するガチャに取り組みました。

オ 「いのちをつなぐ支援活動を応援 全国キャンペーン」募金（新規）

実績：3,191千円余（その他の寄付金）

新型コロナウイルス感染症の流行により困難を抱える方々を支援するための助成に活用するための募金活動を行いました。

カ 遺贈・相続寄付の取組強化

次世代のために遺贈・相続寄付を通じて社会貢献したいと考える方々も少しずつ増えているとされており、ホームページでのPRを図りましたが、募金の実績はありませんでした。

2 共同募金運動推進のための取組

(1) 福祉教育による寄付文化の浸透

小・中学生、高校生を対象とした、「赤い羽根出前授業」については、新型コロナウイルス感染症流行のため実施できませんでした。

(2) 赤い羽根のPR

赤い羽根共同募金運動の気運醸成を図るため、赤い羽根の着用を促進するとともに、様々な場面で赤い羽根が目に触れる環境づくりを進めました。

ア 赤い羽根オープニングイベントの実施（10月1日）

新型コロナウイルス感染症に対応するため、令和2年度と同様、社会福祉会館において関係者のみの参加とし、規模を縮小して実施しました。

イ 寄付金贈呈式等を活用したPR

寄付金贈呈式や助成決定通知書交付式（４月２２日）などについては、新型コロナウイルス感染症に配慮しながら実施しました。

ウ 赤い羽根着用の働きかけ

一般住民と接する機会の多い金融機関の窓口職員や、放送を通じてPRできるマスコミ関係者に対して、運動開始時の赤い羽根着用を働きかけました。

エ オリジナルバッジ等によるPR

レノファ山口FCの協力を得て、赤い羽根レノ丸バッジを作成し、募金資材や赤い羽根PR資材として活用しました。

オ 赤い羽根共同募金パンフレットの作成（新規）

赤い羽根共同募金の実績や使い道を分かりやすく記載した「赤い羽根レポート2020」を新たに作成し、赤い羽根共同募金の理解の促進に努めました。

カ ホームページ等によるPR

赤い羽根共同募金運動や本会の事業等について、ホームページやSNSを通じた情報提供に努めました。

3 地域ニーズを反映した助成

共同募金の使命である地域福祉の充実を図るため、地域ニーズを的確に把握して助成を行うとともに、助成した活動の内容や成果をホームページに掲載し、赤い羽根共同募金の積極的な広報に努めました。

また、令和3年3月に改正した本会の助成要綱により、県域公募助成及び地域助成の明確化等を図るとともに、新設した「特別助成プログラム」による重点的な支援を行うこととしました。

(1) 県域助成

ア 公募助成

実績：37件 31,830千円 ※内2,830千円はNHK歳末から充当
(前年度：37,470千円)

山口きらめき財団が実施するオンライン説明会への参加や助成情報ホームページへの掲載を行うとともに、関係団体等への通知や本会ホームページへの掲載等を通じて幅広く広報し、適切な助成となるよう努めました。

イ 「いのちをつなぐ支援活動を応援 全国キャンペーン」助成（新規）

実績：31件 6,890千円

中央共同募金会の呼びかけに応じて、新型コロナウイルス感染症の流行に対応する「日常生活に困難を抱える方を支援するフードパントリー」及び「虐待防止や自殺防止のための相談援助活動」への助成を行いました。

ウ 赤い羽根テーマ募金

実績：7団体 6,501千円余（前年度：6,280千円余）

認定団体が自ら赤い羽根を掲げて募金活動を行い活動資金を確保するテーマ募金を実施しました。令和3年度の活動団体の認定は、改正助成要綱に基づき、県共同募金会が一括して行いました。

エ 緊急支援事業による支援

実績：3件 4,800千円（前年度：3,000千円）

緊急に支援を必要とする団体に対して、緊急支援事業積立金による助成を行いました。

オ 特別助成プログラム（新規）

事業費：3,000千円

改正助成要綱に規定した「特別助成プログラム」により、令和4年度に「ひきこもりの人」及び「ヤングケアラー」を支援する団体に対して公募助成を行うこととしました。

(2) 地域助成

実績：194,155千円余 ※内22,135千円余は地域歳末から充当
（前年度189,552千円余）

市町共同募金委員会において小地域福祉活動（地区社会福祉協議会、自治会等）への助成を行うとともに、新たな地域課題を踏まえた活動への助成を促進しました。

(3) 地域歳末たすけあい

実績：53,853千円余（前年度：54,226千円余）

各市町共同募金委員会において、高齢者や障害者などの支援が必要な方々に対する歳末の活動に対して助成を行いました。また、地域助成財源の一部を充当しました。

(4) NHK歳末たすけあい

実績：6,476千円余 ※内2,830千円は県域公募助成に充当
(前年度：8,941千円余)

児童養護施設や障害児施設等の子どもたちへのお年玉プレゼント、児童養護施設等から自立する児童に対する支援を行いました。また、県域公募助成財源の一部を充当しました。

(5) 使途の明確化

共同募金の使い道が寄付者に明確に伝わるようにするため、ホームページへの「ありがとうメッセージ」の掲載や、募金実績や使途などを示す「赤い羽根レポート2020」を作成しました。

(6) 配分委員会の開催等

募金を活用して適正な助成を行うため、配分委員会による現地調査、ヒアリング及び審議を行いました。

ア 配分委員会の開催：7月16日、9月6日、3月2日

イ 現地調査：9団体、4日間

ウ ヒアリング：24団体、5日間

4 組織運営

本会の適切な運営を行うため、理事会及び評議員会等を開催するとともに、市町共同募金委員会との緊密な連携により、共同募金運動の一層の推進に努めました。

また、職員の資質向上のための研修については、積極的な参加に努めました。

(1) 理事会及び評議員会の開催

ア 理事会：6月8日、9月13日、3月16日

イ 評議員会：6月28日、9月21日、3月24日

ウ 監事監査：5月26日

エ 市町共同募金委員会事務局長・担当者会議

6月16日（新任者研修：オンライン）、6月22・23日（オンライン）、
2月24日（オンライン）

(2) 研修会への参加

職員の資質向上を図るため、研修会等に積極的に参加しました。

・中央共募都道府県職員研修会

5月11・12・13日（オンライン）、

5月18日（新任向けサロン：オンライン）、1月24日（オンライン）、

1月31日（オンライン）、2月14日（オンライン）

(3) 市町共同募金委員会への支援

市町共同募金委員会による共同募金運動推進の取組に対して、共同募金運動推進強化特別支援事業により支援しました。（12市町共同募金委員会）

(4) 県社会福祉協議会との連携

県社会福祉協議会の事業の円滑な推進に向けて、助成に当たっては「第6次福祉の輪づくり運動推進県域活動計画」に沿ったヒアリングを実施しました。

また、当該計画の推進を図るため、「特別助成プログラム」の実施内容の決定に当たっては、県社会福祉協議会と協議の上、助成対象を選定しました。

5 その他多様な取組

(1) 災害等準備金の積立等

被災地の復興を支援するボランティアセンターの設置や運営等を支援するための準備金を積み立てました。

なお、被災地を支援するための拠出については、該当がありませんでした。

また、災害被災地が募集した義援金の募集に協力しました。

・災害等準備金積立額：9,972千円（前年度：10,018千円）

- ・義援金取扱額：587千円余（前年度：1,650千円余）

(2) 被災者への見舞金の支給

県内の火災等による住居の喪失や死者の発生に際して、被災者等に見舞金を支給しました。

実績：91件 1,600千円

(3) 民間資金による助成事業への協力

地域福祉を推進するための民間助成事業について、推薦等の協力をしました。

- ・中央競馬馬主社会福祉財団：4件 5,970千円
- ・毎日新聞西部社会事業団：1件 100千円

(4) 受配者指定寄付金

指定した社会福祉法人等の公益法人に寄付をすることができる「受配者指定寄付金」については、該当がありませんでした。

(5) 共同募金協力者等に対する顕彰

共同募金運動の推進に功績のあった個人や団体の推薦や顕彰を行いました。

ア 厚生労働大臣表彰（1団体）

表彰種別	受賞者	市町名	備考
奉仕団体	株式会社木原製作所 職員親睦会	山口市	

イ 中央共同募金会会長表彰（2人、1団体）

表彰種別	受賞者	市町名	備考
奉仕功労者	津 穂 敬 信	防府市	
〃	笠 井 泰 孝	宇部市	
地区・団体	下関市共同募金委員会	下関市	

ウ 山口県知事表彰（1人、2団体）

表彰種別	受賞者	市町名	備考
奉仕者	上山公甫	防府市	
奉仕団体	岩国市子ども会連合会美川支部	岩国市	
〃	ふしの岩戸太鼓保存会	山口市	

エ 山口県共同募金会会長表彰等（12人、18団体）

表彰種別	受賞者	市町名	備考
奉仕者	小川善徳	宇部市	
〃	吉田邦昭	〃	
〃	青木寛	〃	
〃	松田保美	〃	
〃	佐川行輝	〃	
〃	墓田昭	萩市	
〃	最上七重	〃	
〃	山根千鶴子	〃	
〃	山本凱子	〃	
〃	瀧山恭祐	〃	
〃	瀧山節美	〃	
〃	宮内美保	柳井市	
奉仕団体	生鮮市場スーパーバリューマルシン	岩国市	
〃	うまもん株式会社	〃	
〃	岩国ロータリークラブ	〃	
〃	岩国中央ロータリークラブ	〃	
〃	岩国西ロータリークラブ	〃	
〃	周南市立三丘小学校	周南市	
〃	周南市私立鹿野中学校	〃	
感謝	シマダ株式会社	山口市	
〃	周東地区民生委員児童委員協議会	岩国市	
〃	美川開発株式会社	〃	

〃	三井化学労働組合 山口支部	〃	
〃	通津工業会	〃	
〃	酒井酒造株式会社	〃	
感謝	株式会社桐田商会	〃	
〃	ユニオン石油工業株式会社	〃	
〃	山口県東部ヤクルト販売株式会社	〃	
〃	株式会社CGSコーポレーション	〃	
〃	株式会社 ウエムラエナジー	〃	